



2025 年 3 月 25 日

赤い羽根の中央共同募金会

令和 6 年能登半島地震に伴う  
「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」  
(ボラサポ・令和 6 年能登半島地震) の助成決定にあたって  
＜第 7 回＞

## はじめに

2024（令和 6）年 1 月 1 日に発生した石川県能登地方を震源とする地震により、石川県内で最大震度 7 が観測され、甚大な被害が発生しました。また、同年 9 月 21 日から 23 日にかけて記録的な豪雨となり、奥能登地域を中心に河川の氾濫や土砂災害などさらなる被害が発生しました。

これらの災害によりお亡くなりになられた方に謹んでお悔やみを申しあげますとともに、被害に遭われた全ての方々に心からお見舞いを申し上げます。また、被災された方々の生活が 1 日でも早く平穏を取り戻せるよう心よりお祈り申し上げます。

令和 6 年能登半島地震の発災から 1 年以上、豪雨災害から半年以上が経過しましたが、たび重なる災害により、被災された方々は厳しい環境での生活や不安を抱えての生活を余儀なくされています。被災地では引き続き、復旧・復興に向けて、被災家屋の片づけや、修理、被災された方の心身のケア、仮設住宅でのサロン活動など多くのボランティア団体やNPOによる長期的な支援が必要とされています。

こうした状況を受けて、赤い羽根の中央共同募金会では、被災地で活動するボランティアグループ、NPO等を資金面で支援するため、2024（令和 6）年 1 月 2 日から「ボラサポ・令和 6 年能登半島地震」の寄付募集を開始し、大雨被害にかかるご寄付とあわせて財源とし、7 回目の助成を行いました。

## 1. 応募状況と助成決定状況

第 7 回目の助成公募は、地震とともに豪雨により被災された方を支える支援活動も助成対象とし、1 月 17 日（金）から 2 月 3 日（月）までの期間で行い、ボランティア団体やNPOから、以下のとおり多数の応募をいただきました。

| 応募状況                        | 件 数  | 応募額          |
|-----------------------------|------|--------------|
| 短期活動（活動日数 30 日以内・50 万円上限）   | 24 件 | 939 万円       |
| 中長期活動（活動日数 31 日以上・300 万円上限） | 59 件 | 1 億 4,909 万円 |
| 合 計                         | 83 件 | 1 億 5,848 万円 |

応募のあった 83 件の内、被災地域（石川県、富山県）の団体からの応募は 14 件ありました。全国各地の団体が被災地で支援活動を続けている一方で、被災地の住民が新たに団体を設立したり、地元団体が平時の活動とは別に復旧、復興に取り組んでいる様子が見て取れます。

これらの応募について、3月14日に審査委員会を開催し、応募要項に記載の「審査にあたって重視する点」の8項目に重点を置き審査を行いました。また、活動団体や現地の状況を確認するため、必要に応じて聞き取り調査を行いました。

- ① 応募書から具体的な活動内容や経費精算が読み取れる内容となっているか
- ② 目標や問題意識が明確になっているか
- ③ プロジェクトを実施するための手法が明確で適切か
- ④ 自団体のメンバーだけでなく、ボランティアとともに復旧や復興に向けて行う活動に、さまざまな人たちの参加と協力が得られた活動であるか
- ⑤ 当該被災地に設置された災害ボランティアセンター等との連携や協働により活動を行っているか
- ⑥ 被災地で暮らす人たちの潜在的な力を引き出し、高めていこうとしているか
- ⑦ 被災地での新しい社会的事業・活動へと発展する可能性があるか
- ⑧ 「この先」を意識した活動であるか

審査の結果、短期活動について16件・602万円、中長期活動について46件11,098万円、計62件1億1,700万円の助成決定をいたしました。

## 2. 審査にあたっての考え方（審査委員長コメント）

今回のボラサポの助成においては、第6回に引き続き、地震とともに豪雨により被災された方を支えるため、炊き出しや重機等による家屋の解体やがれき撤去、運搬などを行う活動、仮設住宅での被災者の生活環境を整備する活動や被災者のコミュニティづくりのためのサロン活動のほか、農業の復旧支援の活動などの応募も見受けられました。

審査では、助成財源の資金状況を鑑みながら優先順位をつけ、総合的に判断して審査を行いました。残念ながら不採択または助成額を減額せざるを得ない応募もありました。そうした応募は、短期プログラム・中長期プログラムともに、積算されている経費の使途や積算根拠が応募書から読み取れない、他助成への応募経費との切り分けが読み取れない、被災者のニーズに沿っていることが分かり難い、現地の連携先の記載がない、応募書への活動内容の記載が薄く具体的な内容が読み取れない、団体ホームページやフェイスブックなどから活動内容の記載を見つけられず、また連携先へのヒアリングなどから活動実態の確認ができない、といった傾向がありました。特に、応募書の記載が読み取れないと判断された応募の中には、日ごろ助成金などを活用しない団体が、活動の長期化に伴い必要に迫られて応募されているケースもあり、応募書の書き方やポイントをとらえきれていないように見受けられました。

「ボラサポ・令和6年能登半島地震」では、応募期間中は、応募書の記載のポイントについての相談をお受けしていますので、事務局までご相談ください。（但し、応募内容についての相談は受けていません。）また、団体の所在する地域のNPO中間支援組織や、社会福祉協議会等でフォローしてくださる場合もありますので、ご相談してみてください。

被災された皆さんが厳しい環境での生活を送っているのと同様に、現地で支援活動に取り組むボランティア団体やNPOの皆さんも、さまざまな不便な状況に身を置きながら長期間にわたり活動されていることに心からの敬意を表します。

また、活動の長期化に伴い、活動する団体やNPOが協力しあい、被災者のニーズにこ

たえるべく、これまで以上に活動の幅を広げて、取り組まれている状況がみられます。あらためて重機等を使った活動での安全管理や、食に関わる活動の安全衛生管理、コミュニティ支援に関わる情報管理にも留意しつつ、活動を進めていただくようお願いします。

今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、多くの寄付者から託された貴重な財源による助成であることをご理解いただき、有意義な活動を展開されるよう望みます。

なお今後も、長いスパンで被災者の生活再建やコミュニティ再興等の支援活動が必要とされていることから、第8回目の助成を行うことを決定しています。支援活動をおこなうボランティア団体やNPOが、本助成を活用しながら支援活動を継続し、被災地の問題解決の一助となることを期待しております。

災害ボランティア・NPO 活動サポート募金 審査委員会  
委員長 菅 磨志保